



藤本 みのる 通信

Vol 218

2016年3月8日発行

大月市議会議員



自宅 大月市猿橋町小篠 8 5 3

電話/FAX 0 5 5 4 - 5 6 - 7 2 7 2

「年齢を重ねても支える側に回りましょう」と

シンポジウムを聞いて心に残ったのは、高齢化の進展により、2050年には65歳以上1人に対し、20歳から64歳が1・2人となり、「肩車型社会」になること、だから65歳以上の人も元気に張り合いのある生活を送り、介護が必要な方やちょっとした手助けを待っている方を支援できる支え手になりましょう、という言葉でした。そうすれば、高齢化が進んでも社会を維持していける、と。

住み慣れた地域で、高齢者がいつまでも元気に暮らすために切れ目ない支援をしていく体制づくり（地域包括ケアシステム）を、大月市でも推進していること、医療、介護、福祉、地域、行政等の関係者による会議や研修会、ワーキンググループを開催していることが紹介されました。シンポを通じて、連携して支え合う、自分が地域の中で役割を持ち続けること、張り合いのある生活を送ることが地域の力につながるのだということが良く分かりました。

気になったのは、コーディネーターが最後に日本は福祉国家ではないと「個人」を強調したあと、「消費税は20%になる」と脅かしたこと。そんな大增税は許さないと口をつきそうになりました。



第54回大月市生涯学習推進大会（市民会館大ホール）

「見つめよう！地域の力」
～粋な心で豊かな暮らしを～
福祉介護にスポットをあてて
シンポジウム

コーディネーター

埴武郎（大月短大准教授）

パネリスト

・安藤剛（大月社協地域福祉）

・奥村恵美子（いきいき

サロン アジサイ代表）

・中村太一郎（大月市地域包括支援センター）

【藤本みのる活動日誌】

3月 3日(木) 総務産業常任委員会

3月 4日(金) 社会文教常任委員会(傍聴)

3月 5日(土) 大月短期大学卒業式(来賓)

3月 6日(日) 大月市生涯学習推進大会、作品展観覧